

一面に続いて、松本総長に思修館についてさらに深く解説していただきました。

京都から 新しい一歩を 踏み出そう

私は、人間にとって究極の問いとは、「我々は何者か。どこから来て、どこへ行くのか」、「我々は何の為に生きていくのだろうか」に尽きると思っています。そして、答は一人ひとり違っても、この問いに向き合うことが高い志を持つにあたっては避けて通れないことだとも思っています。時に忙しい日常から離れ、人生や物事の本質・根本について考える。それが、何事においても自信を持って行動できるための最低条件なのです。

思修館の「思」は思う、つまり考え学ぶこと。「修」は修める、つまり実践です。よく考え実践することで、社会に役立つ知恵を身に付けてほしいという思いがこの名称には込められています。深く考えられないままに行われた実践は表面上のものになりやすい。変革のスピードがとて速い中、それではただ流されていくだけです。ですから今はなおさら深く考える必要があるのです。ただ、深く考えれば考

えるほど人は思索の世界に閉じ籠るようになりやすい。それではせっかく思索したことを真に社会に貢献できるものにするにはどうすればいいか。一方、みなさんがこれらについて考える際の基礎となる学問、大学における研究では専門分化が著しく、一人ひとりが対象とする範囲はきわめて狭くなっています。そのため、大学院で専門を深めるだけでは、現代の様々な問題や課題について大所、高所から俯瞰し、それに基づいて判断し、実践できるような人材はなかなか育ちにくい。まして社会のリーダーとなるとなおさらです。

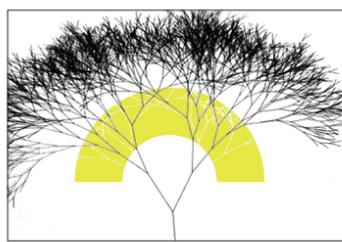
そこで、特定分野の学問の原理や実験を究めることを課題としてきたこれまでの大学院とは異なる趣旨で、総合生存学の専門を極めながらも、幅広い分野について、文理融合、異分野融合によるアプローチで、全体を俯瞰的に見渡しかつ物の本質を究めるための大学院が構想されました。まさに論語に言う「本を務むる」の学、すなわち「務本」の学であり、これを体現していくのがリー

ディング大学院です。その形ある最初のモデルを大学院として京都大学が開設することになったのです。

あらためてここで大学院での学問について考えてみると、それは高校までの「強いて勉める」勉強をベースに学部で学んできたものを、再度問い直すことだといえます。ではその際、何が一番重要なのでしょうか。

一般的に研究者は「科学」の範疇に入るものだけを研究します。科学で理解できないことについては、非科学、非科学的なこととして排除します。しかし実際の世の中には、未科学という大きな領域が存在します。今は科学ではないが、研究次第では科学になりうる領域のことで、対象は自然科学だけでなく、人間の心や社会制度などにも及びます。

伊井由命(いゐのよのち)と伊井由命(いゐのよのち)が濁った水を矛で掬い上げると日本ができたという「古事記」で有名な国生み伝説、あるいは、アダム肋骨からイブが生まれたという『旧約聖書』のエピソードをご存知かもしれませんが、これらは近代以降、人間の空想が生んだもので科学的な根拠はないと考えられてきました。しかし



現代の専門分野の細分化の様子。務本之学はイメージとしては黄色の部分を対象にする

現代の専門分野の細分化の様子。務本之学はイメージとしては黄色の部分を対象にする

思修館 用語とカリキュラム解説

思修館とは何か

思修館とは、京都大学の新たな大学院「総合生存学」の通称。なお、総合生存学は5年貫の博士課程である。名称中の「思修」は、学びについての伝統的な表現である「聞思修」(「聞」は聞くこと、「思」は考えること、「修」は実践すること)に由来する。

3つの特色

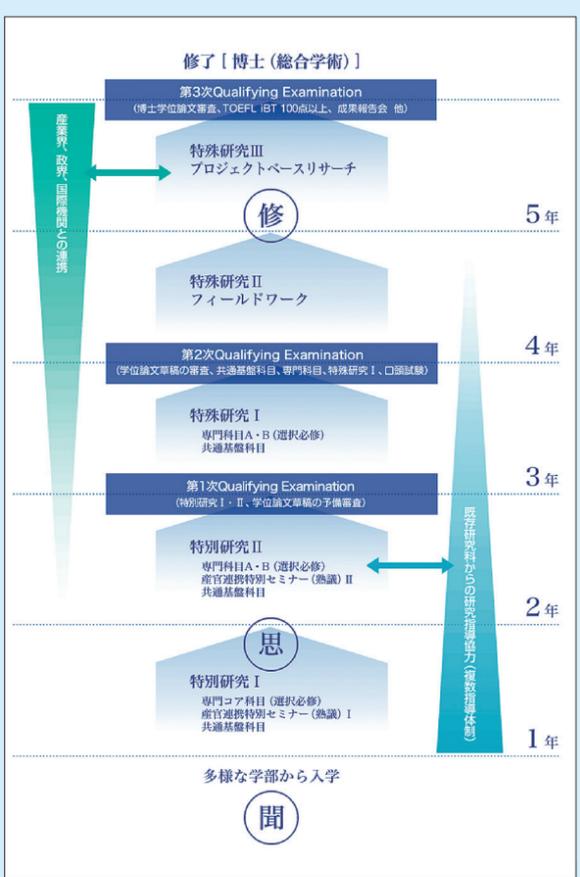
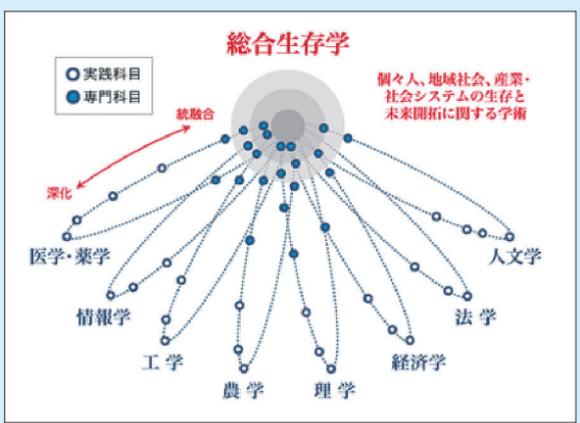
① ティーチング型教育
入学してくる学生の出身学部はさまざまであり、卒業後の進路も多様だが、一人ひとりの専門研究やキャリアパスに基づいてそれぞれのカリキュラムを設計する。

② 研修施設の利用による対話とディベート
思修館に入学した学生は、合宿型研修施設を利用することになる。狙いは、

③ メンター・複数指導
専任教員の他に、メンター及び研究指導教員や科目担当教員が指導することによって、より幅広い学識や多様な方法論を習得することができる。

カリキュラム
特別研究Ⅰ、Ⅱ及び特別研究Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ
いずれも研究指導科目であるが、最初の2年間は特別研究Ⅰ、Ⅱとして基礎的な分野研究を行い、後半の3年間は特別研究Ⅲ、Ⅳ、Ⅴとして社会実装研究を行う。

八思
幅広く高度な知識と語学力及び幅広い専門学術の知識と視野を獲得するため、医薬・生命、情報・環境、理工学、人文・哲学、経済・経営、法律・政治、語学、芸術の8分野から、学生一人ひとりの専門性等に応じて選択履修させる科目である。英語によ



異なる専門をバックグラウンドに持つ学生が、生活を共にする中で、一緒に講義を受けたり、討論や議論をしたりすることで互いに切磋琢磨し交流する環境作り。生活を共にすることは、膨大で厳しいカリキュラムをこなす際の支えにもなる。

産官連携特別セミナー(熟議)(1, 2年次)
産業界、官界や国際機関等から各界のリーダーを学外講師(特任教員)に招いて行う。学生を10名程度の少人数で問答・討論を行い、各回ごとにレポートにもまとめる。各界のリーダーからチャレンジ精神やリーダーマインドを学ぶことが期待される。

特別研究Ⅰ、Ⅱにおいて、それぞれ国内サービスマーケティング、国外サービスマーケティングとして実施される。国内サービスマーケティングは休日を中心に実施し、国外サービスマーケティングは夏季休業期間中を中心に行う。研究先は、国内では京都府・京都市の福祉施設、国外ではJICAなどの国際機関を予定している。

特別研究Ⅰ(3年次)
特別研究では、特別研究の成果を社会的課題の解決に応用する。2年次修了時に学位論文(博士)草稿を提出し、予備審査を通過した者が3年次に進修する。また、4年進級時には学位論文の草稿の審査があるが、3年間の科目履修状況や語学力もチェックされる。

目指すのは、文理融合、異分野融合の知識と俯瞰力、それらを社会実装できる思考力と実践力だ



今、iPS細胞が大きな話題になる中、神話や伝説と、科学的真実との線引きは、再び曖昧になってきたのではないのでしょうか。まさに未科学が科学の領域に引き入れられたわけで、このことが学問研究の人間社会へのもっとも大きな貢献なのです。アインシュタインが偉大なのも、質量や時間について、当時の科学的常識をひっくり返して、時間や質量というものも変わりうるという非科学的なことに科学的な根拠を与え、新しい科学の領域を切り拓いたことにあります。

これらの研究成果は、大学院で専門の殻に閉じこもってではなかなか得られません。そのため第一歩は、科学の外の世界に新しいものを見つけて、それを本当ではないかと考えることから始まります。今の社会システムは経済一辺倒のままではいけないのか、というのもその一つでしょう。大事なことは、どんな問いをも受け止めて、非科学的なものとして済ませないことです。そのために、大学院へ進んでからも、幅広い分野に亘って学ぶ必要があるのです。思修館では、自分の専門を学位論文としてまとめると同時に、大学院でも基礎となる教養については学んでおくべきという趣旨から、「共通基盤科目」という教養科目群、通称「八思一【用語】」を提

供します。教養と専門とは、本来分けて考えられるものではないありません。両者の根本には「人間とは何か」、「われわれはどう生きるべきか」の問いがあり、人間というものを介してつながっているものだからです。昔から「君子不器」(論語)とも言われます。「君子」、つまり徳を備えたリーダーは、一つの器のように、決まった大きさで特定の用途にしか使えないものであってはならないのです。

思修館の5年間はきわめて野心的なものですが、同時にたいへん厳しものかもしれません。しかしその厳しさに耐え自分を鍛えれば、社会の各方面で、あるいは世界的な組織から、間違いなく将来のリーダーとして迎えられるに違いありません。私はすでに、産業界、官界等との話し合いの中でその手応えを十分に掴んでいます。もちろん研究者になる道、起業する道も開かれています。

新大学院の講師陣には京都大学の中でも選りすぐりの教員が揃いました。また外部の講師も社会で大家を成した人です。単に知識を学ぶだけでなく、対話を通じて自分を鍛えるのにはこれほど相応しい相手はいないと思います。

リーダーには覚悟と信念、加えて他者への共感が必要です。自分だけよければいいとの考えでは困ります。他の人への責任もあります。思修館では、教養と専門をさらに広げ深め、語学をしっかりと身に付けるだけでなく、日本語で自分の考えを伝える力も高めてください。学問、研究に加えて思いやりを育て、一方で気迫も養ってほしいと思います。そしてたとえ厳しい環境に出会っても、それさえ楽しめる人を目指してほしい。孔子も「子曰、知之者不如好之者、好之者不如樂之者」(論語)と、何事も楽しんでこなす人間が一番魅力的である、と言っています。そこに人間力が現われるのです。

「全てのことは天と地の間のことである」(空海)と言われるように、昔から人間は天を仰いで人間とは何かを考えてきました。人間について、人と人の関係、また社会についてしっかりと考える。そしてこの優れた環境を活かして、自らを鍛え、すべてを自らの責任で行い、他の全ての人のために責任を果たせるリーダーを目指して下さい。

ある意味で閉ざされた学問の世界から、常に実社会に目を向けておくこともできると思います。思修館の「修」は実践です。いくら知識があっても頭でっかちなだけでは何かあつたら足がすくむようではリーダーとして不適合です。「知」は現場で試されてこそ、下に「日」が付き、「智」となるのです。そのためプログラムも思修館にはたくさんあります。例えば4年次での、ユネスコのような国際機関での「海外武者修行」と呼ぶフィールドワークを含む「特殊研究II【用語】」、1年次と2年次で行うインターンシップを含む「特別研究I、II」、それに最終学年で行うプロジェクトベースリサーチを含む「特殊研究III」などです。

思修館には合宿型研修施設【用語】を整備し、異なる分野を学んできた者同士が24時間切磋琢磨できる環境を用意しています。ここでは自問自答のための十分な時間が与えられるとともに、圧倒的な量の人と人とのぶつかり合いによって人間性も磨かれます。加えて官界、産業界のトップリーダーを招いての「産官連携特別セミナー」、通称「熟議」【用語】では、

ある意味で閉ざされた学問の世界から、常に実社会に目を向けておくこともできると思います。思修館の「修」は実践です。いくら知識があっても頭でっかちなだけでは何かあつたら足がすくむようではリーダーとして不適合です。「知」は現場で試されてこそ、下に「日」が付き、「智」となるのです。そのためプログラムも思修館にはたくさんあります。例えば4年次での、ユネスコのような国際機関での「海外武者修行」と呼ぶフィールドワークを含む「特殊研究II【用語】」、1年次と2年次で行うインターンシップを含む「特別研究I、II」、それに最終学年で行うプロジェクトベースリサーチを含む「特殊研究III」などです。

思修館の5年間はきわめて野心的なものですが、同時にたいへん厳しものかもしれません。しかしその厳しさに耐え自分を鍛えれば、社会の各方面で、あるいは世界的な組織から、間違いなく将来のリーダーとして迎えられるに違いありません。私はすでに、産業界、官界等との話し合いの中でその手応えを十分に掴んでいます。もちろん研究者になる道、起業する道も開かれています。

新大学院の講師陣には京都大学の中でも選りすぐりの教員が揃いました。また外部の講師も社会で大家を成した人です。単に知識を学ぶだけでなく、対話を通じて自分を鍛えるのにはこれほど相応しい相手はいないと思います。

リーダーには覚悟と信念、加えて他者への共感が必要です。自分だけよければいいとの考えでは困ります。他の人への責任もあります。思修館では、教養と専門をさらに広げ深め、語学をしっかりと身に付けるだけでなく、日本語で自分の考えを伝える力も高めてください。学問、研究に加えて思いやりを育て、一方で気迫も養ってほしいと思います。そしてたとえ厳しい環境に出会っても、それさえ楽しめる人を目指してほしい。孔子も「子曰、知之者不如好之者、好之者不如樂之者」(論語)と、何事も楽しんでこなす人間が一番魅力的である、と言っています。そこに人間力が現われるのです。

「全てのことは天と地の間のことである」(空海)と言われるように、昔から人間は天を仰いで人間とは何かを考えてきました。人間について、人と人の関係、また社会についてしっかりと考える。そしてこの優れた環境を活かして、自らを鍛え、すべてを自らの責任で行い、他の全ての人のために責任を果たせるリーダーを目指して下さい。

ある意味で閉ざされた学問の世界から、常に実社会に目を向けておくこともできると思います。思修館の「修」は実践です。いくら知識があっても頭でっかちなだけでは何かあつたら足がすくむようではリーダーとして不適合です。「知」は現場で試されてこそ、下に「日」が付き、「智」となるのです。そのためプログラムも思修館にはたくさんあります。例えば4年次での、ユネスコのような国際機関での「海外武者修行」と呼ぶフィールドワークを含む「特殊研究II【用語】」、1年次と2年次で行うインターンシップを含む「特別研究I、II」、それに最終学年で行うプロジェクトベースリサーチを含む「特殊研究III」などです。

思修館の5年間はきわめて野心的なものですが、同時にたいへん厳しものかもしれません。しかしその厳しさに耐え自分を鍛えれば、社会の各方面で、あるいは世界的な組織から、間違いなく将来のリーダーとして迎えられるに違いありません。私はすでに、産業界、官界等との話し合いの中でその手応えを十分に掴んでいます。もちろん研究者になる道、起業する道も開かれています。

新大学院の講師陣には京都大学の中でも選りすぐりの教員が揃いました。また外部の講師も社会で大家を成した人です。単に知識を学ぶだけでなく、対話を通じて自分を鍛えるのにはこれほど相応しい相手はいないと思います。

リーダーには覚悟と信念、加えて他者への共感が必要です。自分だけよければいいとの考えでは困ります。他の人への責任もあります。思修館では、教養と専門をさらに広げ深め、語学をしっかりと身に付けるだけでなく、日本語で自分の考えを伝える力も高めてください。学問、研究に加えて思いやりを育て、一方で気迫も養ってほしいと思います。そしてたとえ厳しい環境に出会っても、それさえ楽しめる人を目指してほしい。孔子も「子曰、知之者不如好之者、好之者不如樂之者」(論語)と、何事も楽しんでこなす人間が一番魅力的である、と言っています。そこに人間力が現われるのです。

専任教員一覧

 泉 拓良 教授 史学(考古学)文化財学、博物館学を基礎とした専門分野を軸に、国際的な文化遺産や文化財論へ展開する。	 阪井 康能 教授 分子細胞生物学を基盤とする応用微生物学への展開。有用タンパク質生産、資源・環境問題解決のための技術開発とそれを支える細胞機能の探求など。	 西田 豊明 教授 人とコミュニケーションする会話ロボットのデザインなど、人工知能の研究を行う。
 稲垣 暢也 教授 糖尿病学、代謝学、栄養学を基礎とした専門分野を軸に生活習慣病などの疾患へ展開する。	 櫻井 繁樹 教授 資源、エネルギー等に係る政策、産業構造、企業の事業展開等全般を俯瞰。	 林 信夫 教授 ローマ法や西洋各国の法の歴史を素材にして各国の法の存在態様を比較検討する。
 大垣 英明 教授 加速器、放射線計測、量子ビーム工学を基礎とした専門分野を軸にエネルギー科学へ展開。	 塩田 浩平 教授 ヒトの正常および異常発生メカニズムの研究を中心に、健康と病態における遺伝と環境要因の相互関係を追究する。	 藤田 正勝 教授 哲学、倫理学、宗教学分野の根本問題について考察。あわせて日本の思想史、哲学史の特質と意義について研究。
 大島 幸一郎 教授 有機化学、触媒化学を基礎とした専門分野を軸に広範な化学工業を俯瞰。	 竹本 佳司 教授 化学系薬学、有機合成化学、医薬品化学を基盤として創薬研究に関わる学問領域・基盤技術を開拓する。	 前一廣 教授 化学工学、環境プロセス工学、バイオマス転換工学、マイクロ化学を軸に資源・エネルギー・環境の学際領域へ展開。
 垣塚 彰 教授 神経変性疾患に代表される難治性疾患の発症機構の解明と新たな治療法の開発。	 田村 正行 教授 リモートセンシング、地理空間情報解析、環境動態解析、自然災害科学、土木環境システム。	 溝端 佐登史 教授 国際比較の経済学、経済システム論から見た経済政策、制度と組織の経済学。
 勝見 武 教授 地盤工学、地盤環境工学、地球環境学を軸とする専門分野を軸にした学際領域への展開。	 時任 宣博 教授 有機化学、無機化学、合成化学、配位化学を軸に、幅広い物質創製化学へ展開する。	 光山 正雄 教授 微生物感染症学、免疫学の専門を軸に、生命活動と疾患病態、疾患と社会環境についての理解と考察を深める。
 川井 秀一 教授 森林学、木質科学、環境農学、文化財科学を軸とする専門分野を軸にした学際領域への展開。	 中村 佳正 教授 応用数学、とりわけ、大規模データの統計処理のための計算数学・計算アルゴリズム。	 NAZOV, Dimiter Savov 教授 市場経済・資本主義諸類型の比較。制度論・進化論の視点からみた旧社会主義国の体制転換。
 川上 浩司 教授 社会医学、臨床医学を軸に、医療、医薬品、医療機器などの政策、福祉、産業化、臨床での評価と適正使用、費用対効果について研究する。	 縄田 栄治 教授 環境農学、農業生態学を軸として、地球規模の食料、環境問題を学際的に探究する。	 山敷 庸亮 准教授 水資源工学・水環境工学・沿岸海洋学をベースに、地球規模の環境問題や大規模災害への対応策を展開。
 小山 哲 教授 西洋史、ヨーロッパ近世史、とくにポーランド・リトアニア共和国(16~18世紀)の政治思想・政治文化。		

(掲載はあいうえお順)

特殊研究II(含フィールドワーク)(4年次)

4年次のフィールドワークは、通称、海外武者修行とも言われ、研究指導科目である特殊研究IIの中目である特殊研究IIの中で実施される。大学が定めた派遣先において学生の志望等を勘案し、海外の行政・国際機関や企業等に派遣される。自らのテーマを海外で展開し、課題解決や実効的推進策の策定に向けて、実戦的経験を理論化する。

特殊研究III(含PBR発展的PBL)(5年次)

5年次のPBR(発展型PBL)は、研究指導科目である特殊研究IIIの中で実施される。PBRは、グローバル社会において自立して社会活動を行う人間力や、社会課題を深く理解しバランス感覚を持って対応する能力、並びに公共的な使命を果たすのに相応しい強い倫理的責任感等、ディプロマポリシーで謳う大学院総合生存学館の博士学位論文審査で要求されるレベルにまで学生の能力を高めるための重要なコースワークとなる。

Qualifying Examination

博士課程学生が本格的に博士論文作成に着手するまでに、博士論文研究を主体的に遂行できる基礎力を包括的に審査する仕組みで、アメリカの大学院教育で広く行われている。我が国でも、大学院

設置基準第16条の2の規定に基づき、「博士課程の前期及び後期の課程を通じて実践した人材養成上の目的を有する履修上の区分(コース、プログラム等)において、それを学則に定めることにより、前期の課程の修了要件とし、改訂後の大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査の合格を修士論文または特定課題の研究に代えることができる」として代えられることになっている。

大学院総合生存学館(思修館)では、2年次から3年次への進級及び3年次から4年次への進級に際して審査を実施する。2年次から3年次に進級する際には、中間審査(第1次QE)として、総合的な課題解決の基礎となる研究と知識に関する学位論文草稿の予備審査を行う。中間審査の合格者のみが3年次へ進級できる。3年次から4年次に進級する際には、進学審査(第2次QE)として、総合的な課題解決の専門軸となる研究成果(学術論文草稿)の審査、専門科目及び共通基盤科目の単位修得、語学審査及び口頭諮問を行い、進学審査に合格した者だけが4年次に進級できる。

■学生数…1学年20名
■専任教員(研究指導に加え専門科目を担当)...

25名
■研究指導協力教員及び科目担当教員(他研究科所属教員)…56名
■学外講師(特任教員)…19名
■「熟議」担当講師…19名
■その他
総合生存学館(思修館)では、時間的にも厳しいカリキュラムが組まれており、学生の経済負担を軽減するため、博士課程教育リーダーディングプログラム(オールラウンド型)の「大学院思修館プログラム」の履修を前提として、成績優秀者には毎月20万円の奨励金や独創的な研究推進のための研究活動経費が予定されている。

「複数指導体制」に裏付けられた「テラーメイド型教育」が思修館教育の強み

思修館でプログラムコーディネーターを担当される川井先生に、さらに詳しくお話を伺いました。



京都大学生存圏研究所教授
プログラムコーディネーター
川井 秀一 先生

Profile

京都府出身、1980年京都大学農学研究所博士課程修了、現在、京都大学大学院思修館設置準備室長、同生存圏研究所教授、日本学術会議会員。専門は森林学、木質科学、(社)日本木材学会主催の「日本の森を育てる木づかい円卓会議」議長を経て、2006年に認定NPO法人の木を設立、理事長に就任。現在、木材利用と森づくりを通じた環境教育の普及・啓発事業と調査活動を行っている。平成24年度日本農学賞、第49回読売農学賞受賞、編著書に、「熱帯バイオマス社会の再生—インドネシアの泥炭湿地から—」京都大学学術出版会(2012)、「地球圏・生命圏・人間圏—持続的な生存基盤を求めて—」京都大学学術出版会(2010)、「炭素貯留源としての木材の役割と持続的・循環的な国産材利用」(日本農学会編)地球温暖化問題への農学の挑戦(2009)ほか、専門分野の木質材料学に関する編著書多数。

Q1 プログラムと新大学院との関係は?

博士課程教育リデザインプログラムは国による大学院改革のための助成事業で、7年間の期限付きです。京都大学ではこのプログラムの助成を受ける一方で、助成期間終了後もこの理念に基づいた教育が続けられるよう、独立した大学院として「総合生存学館」、通称「思修館」を開設します。今回の学生募集は新大学院受験のためのものです。

Q2 リーダー養成を大学院教育で実施する理由は?

これまで日本では、伝統的にリーダー養成は個人に任せてきたのですが、グローバル化が進んできた中で、リーダーが求められるのを待つだけでなく、積極的に育成する仕組みも必要になってきていると思います。個人の努力の積み上げだけでは限界があります。様々なステップで試行錯誤していきながら芽が出ないまま埋もれてしまう可能性があります。もちろんリーダー養成は学部レベルでも可能かもしれませんが、思修館では、ある程度専門を学んだ異分野の学生が集まり、より高いレベルで切磋琢磨する方が効果的だと考えたのです。

Q3 総合生存学とは?

われわれは、総合生存学を「人類と地球社会の生存」を軸に、関係する諸々の学問体系の「知」を結びつけ、編み直し、駆使することで複合的な社会課題の発掘・分析と定式化・構造化を行い、社会実装までの解決を追求する学術の総体であり、「生存知の構造化と公共化」を対象とする総合学術」と定義しています。これまでも必ずしも体系的ではなかった学問分野であり、限りある地球という枠組みの中で、人口爆発など様々な問題を抱える人類が今後どう生き延びていくのかをテーマに、既存の学術を総合し、具体的な課題解決に向けた方法論を見つめるために構想されたものです。また、これまで、これほどの幅広い分野横断型の専攻が認められることはまれであり、大学院教育課程としては、画期的なものでもあります。

Q4 海外には思修館のモデルとなるような教育機関があるのでしょうか?

思修館を設計するにあたって、先例となるような教育機関を探しましたが多くは見つけられませんでした。大学院レベルでこれほどの広い学術分野を対象にした試みは世界で例がないと思います。

Q5 様々な進路を目指す志の高い若者が共通生活を送る、という点ではイギリスの寄宿制のパブリックスクールが思い出されます。

志の高い学生が生活を共にし、刺激しあう切磋琢磨していくという点では似ているかもしれません。ただ、パブリックスクールは日本ではほぼ高校にあたるのに対し、思修館では幅広い学識と高度な専門知識の獲得を目指す大学院レベルの学生を対象にしています。

Q6 「テラーメイド」とは既成品ではなく、自分の体に合わせた服を仕立ててもらおうという意味ですが、教育でもそのようなことが可能なのでしょうか?

私たちの体形が一人ひとり違っていても、学生が教育機関に対して求めている教育のあり方も様々です。思修館では、入学した学生と担当教員とで、

Q7 学年の定員を20名にしたわけは?

入りたい人を教育するのが、教育としては最も効果が高い。思修館の教育方式は小人数での教育環境で大きな効果を期待していますので、20人が適当だと考えました。半分の10人では、もっと手厚い教育ができるかもしれませんが、少し寂しくなるのではないでしょうか。

Q8 思修館は「夢」がかなえる手助けをする場」といった言い方もできるのでしょうか?

夢と言っても社会性を帯びた「夢」です。それを実現することが社会に役立ち、社会からも強く求められているものでなければなりません。また夢を実現していく中で、奉仕の精神や自己犠牲の精神も養ってほしいと思います。

Q9 国際機関でも世界で活躍できる日本の人材が求められているのですか?

日本は国連をはじめ様々な国際機関に多額の拠出をしています。国際機関では日本人職員がとて少ない。このことは国内でも問題になっていくと思いますが、銀行などからは、「ぜひ、もっと多くの日本人に働いてもらいたい」という声がかかっています。問題はこれにどう対応するかです。実際にはその道筋がわからないというのもネックになっています。

Q10 日本初の試みですから、先生方にとってもたいへんなプロジェクトになると思いますが、

先例のないことをやるうとしていくわけですから、既存の教育システムと整合性をとっていただくだけでも大変です。加えて国の助成がなくなった後の運営についても工夫しなければならぬなど、われわれとしても中途半端な気持ちでは臨みません。

京都大学 大学院 総合生存学館(思修館)博士課程 [5年一貫性] 募集要項

募集人員	総合生存学専攻 20名
出願期間	平成25年1月21日(月)～平成25年1月24日(木) 午後5時まで。(必着) ※出願書類(願書等の他に小論文とTOEFL-iBTのスコア(80点を標準とします)が必要)をそろえて、所定封筒を用いて書留速達郵便として発送してください。平成25年1月22日消印有効。直接持参は不可。
試験日	第1次試験【書類審査】 小論文、学部の実績及びTOEFL-iBT等の英語スコアにより、書類審査を行います。 第2次試験【筆答試験(専門基礎科目)、模擬授業考査、口頭試問】 平成25年2月16日(土) 京都大学近衛館 9時～11時30分 筆答試験(専門基礎科目) 13時～16時 模擬授業考査 平成25年2月17日(日) 芝蘭会館 9時～ 口頭試問
合格発表	第1次試験合格者発表 平成25年2月6日(水) 第2次試験合格者発表 平成25年3月5日(火) 両日とも午後3時に京都大学大学院思修館設置準備室前(近衛館2階)に掲示するとともに、合格者に合格通知書を送付します。
入学料	入学料 282,000円 ※入学時に改定されることがあります。
授業料	前期分授業料 267,900円(年額535,800円) ※入学時及び在学中に改定されることがあります。
学生募集要項の請求方法	住所・氏名・郵便番号を明記の上、240円切手を貼付した返信用封筒(角形2号(332mm×240mm))を同封の上、「学生募集要項請求」と往信封筒に朱書きして下記宛てに請求ください。 〒606-8501 京都府京都市左京区吉田近衛町69 近衛館2階 京都大学大学院思修館設置準備室 教務担当 TEL 075-753-5122